

# 地域・読者



「がらん伽藍の日」の本堂は文字通りがらんとしている（奥で読書しているのは武田副住職）

大阪府吹田市の浄土真宗本願寺派千里寺（武田達城住職）では毎月1、2回、誰でも本堂で自由に過ごせる「がらん伽藍の日」を設けている。「二人でも多くの人と、仏様と一緒にいさせていただく感覚を共有したい」という武田大信副住職(33)の発案で、2018年頃に始めた。

同寺は阪急千里線千里山駅から徒歩2分の地にある。がらん伽藍の日は特に催しがあるわけではないので、文字通り本堂はがらんとしている。訪問者は名前や住所を問われることはなく、僧侶による読経や法話もない。大信副住職は本堂の隅で静かに読書をして過ごす。寺を安全に管理する

## 仏様と一緒にの感覚共有

**キラリ**  
**頑張る** 寺社

大阪府吹田市  
 浄土真宗本願寺派  
 千里寺

### 本堂自由に開放日設定

ため本堂にいが、訪問者が気兼ねなく過ごせるよう極力存在感を消すよう努めている。「求めら

れなければ、こちらから話し掛けることはしません。沈黙に耐えるということに一番苦労します」

その人は度々同寺の法座などにも参加し、熱心に聴聞するようになった。「何年か一人でも、そういう方と出会ってお

「子どもの家に仏壇がない」「そもそも家に仏壇がない」という話を聞いて、それなら「本堂を皆さんの仏壇に」と思い立ったこと。家庭の仏壇なのだから、過ごし方も各人の自由というわけだ。

その人は度々同寺の法座などにも参加し、熱心に聴聞するようになった。「何年か一人でも、そういう方と出会ってお寺との付き合いが始まるのなううれしい。たとえ一度限りの訪問であっても、それをきっかけに仏縁が広がればとの期待もあります」

2人。通常の行事では多くの人がいて話しづらくても、がらん伽藍の日なら気兼ねなく話してもらえるから、それくらいの人数がちょうどよいという。

誰も来ない日もあるが大信副住職は読書に専念できるから特に落胆はしない。この気楽さが長く続いていけるコツだ。「しんどくなったとき

過ごし方は十人十色。過ごし方は十人十色。

に、いつでも行ける学校の保健室のような場所が用意されているのはとても大事。お寺も地域の中でそんな場所になればと思っています」

(右本浩太郎)